

「キラール・ヴァージンロード」

☆☆☆

2009（平成21）年8月26日鑑賞＜東宝試写室＞

監督・脚本：岸谷五朗
 沼尻ひろ子（どん尻ピリ子）／上野樹里
 小林福子（自殺志願者）／木村佳乃
 春日先輩（職場のお局さん）／高島礼子
 江頭賢一（リッチなイケメン・ピリ子の婚約者）／眞木大輔
 大家さん（ピリ子のマンションの大家さん）／寺脇康文
 小峰くん（AYAKAファン）／小出恵介
 AYAKA（アイドル）／小松彩夏
 景山道生（ペンションオーナー）／北村一輝
 北翔（暴走族のリーダー）／中尾明慶
 利根川純（警官）／田中圭
 沼尻源一郎（ピリ子の祖父）／北村総一郎
 2009年・日本映画・97分
 配給／東宝

＜ここまで徹底すれば立派なもの＞

本作の登場人物はたくさんいるが、メインは上野樹里と木村佳乃の二人で他の俳優たちは徹底したこの二人の引き立て役。上野樹里扮する一方のヒロイン沼尻ひろ子はそのどん尻ピリ子というあだ名を聞いただけでどうしようもない女だとわかる。ところが、そんな彼女がいきなり、リッチなイケメン江頭賢一（眞木大輔）との結婚による寿退社が決まったというから、春日先輩（高島礼子）や仲間のOL達が気に入らないのは当たり前。映画冒頭、いかにもどん尻ピリ子風の表情に磨きをかけた上野樹里を中心にミュージカル風のシークエンスが展開されるが、これを見るだけで、本作の「特殊性」がよくわかる。

他方、大家さん（寺脇康文）の死亡、その死体をトランクに入れての沼尻ひろ子の逃避行というメインストーリーが提示された後、突然登場するのが木村佳乃扮するもう一人のヒロイン小林福子。福子も、車の中でハンドルを持ったままボカンと見つめるひろ子前で、宝塚風を含めたミュージカルの主役然とした演技を披露してそのキャラを明示してくれる。これも、世の中そうそう見られないキャラだ。

俳優岸谷五朗の初監督作品はそんな奇妙なコメディだが、「俺はコメディを作るぞ！」と宣言しそれを徹底しているところは立派。もっとも、ミュージカルの嫌いな人はこんな2つのシーンを見ただけで拒絶反応が出るかも？

＜「死にたい女」のキャラの掘り下げがイマイチ？＞

①冒頭の寿退社のミュージカルシーン、②ある偶然で、大家の背中にはさみが突き刺さるミステリーシーンにおけるウエディングドレスの扱い方、そして③誰よりも自分を愛してくれたおじいちゃん沼尻源一郎（北村総一郎）にウエディングドレス姿を一目見せたいと走り続けるひろ子の姿などを見ると、上野樹里演ずる「結婚したい女」沼尻ひろ子のキャラは明確だし、「私幸せになりたいんです！」のセリフもバッチリ決まっている。

他方、木村佳乃演ずる「死にたい女」は演技的には申し分ないが、なぜ死にたいのか？そしてまた死にたいのに何故死ねないのか？がイマイチ不明確。福子も恋多き女でこれまでさまざまな男に尽くしてきたようだが、そのことごとくに裏切られたため「死にたい」と思っているらしい。しかし男にフラレただけでホントに死にたいと思うの？また、たしかにひろ子の運転する車の上に福子が落下してきた時はビックリしたが、死ぬチャンスはいくらでもあるのでは？車の中からいきなり外に転がり落ちてみただけで、「ほら、私死ねないでしょう？」というのは若干証明力不足。現に福子がひろ子の死体処理を手伝う代わりにひろ子が福子を殺すという奇妙な「契約」のもとで福子がひろ子と行動を共にする中で、イケメン男のペンションオーナー景山道生（北村一輝）と出会いちょっと良い雰囲気になりかけると、福子はすぐに「前向き」になったりするのだから、福子の「死にたい願望」のレベルは少し怪しい。

三井住友VISAカードのTVコマーシャルで太ももあらわな姿でコミカルな演技を見せた木村佳乃の持ち味を岸谷五朗監督はうまくひき出しているが、願わくばそのキャラの掘り下げをもう少し・・・。

＜警察官キャラは？暴走族キャラは？＞

「ロードムービー」といえば若き日のチェ・ゲバラのみずみずしい姿を描いた『モーターサイクル・ダイアリーズ』（04年）や中年おじさんのファイナリー巡りを描いた『サイドウェイ』（04年）などたくさんあるが、本作もひろ子と福子が死体を入れたトランクと共に歩む一種のロードムービー。プレスシートには「フルスロットル・ムービー！」との字句が踊るがさてそれは？

ひろ子が運転する外車も、「ごめんね、自首したら返すからね」と言い訳をしながら盗んだ車。そんな車を追っかけるのは、第1に「なぜだ、なぜ逃げるー!？」という一念のみで行動する若き警察官利根川純（田中圭）。第2にパトカーから追跡されるひろ子達をなぜか助けるのが、今ドキちょっと時代遅れでは？と思われる北翔（中尾明慶）率いる暴走族グループだ。1964年生まれの上野樹里監督に暴走族の経験があるのかどうかは知らないが、「キラール・ヴァージンロード」という奇妙なタイトルを含めてこの利根川純と北翔のキャラに共鳴出来るかどうか、本作の評価に大きく関わってくる。私は二大女優のキャラ激突は面白かったがこの警察官と暴走族キャラへの共鳴はイマイチだったため、結果的に星3つにしてみました、さてあなたは？

＜演技派女優としての重厚な演技にも注目！＞

『スウィングガールズ』（04年）で注目された上野樹里は若手女優を代表する一人だが、私の分析では宮崎あおいはもちろん近時は北川景子にも水をあけられ気味？もしそうだとすると、その原因の一つは「コミカルな演技が持ち味」という色が勝ち過ぎているためかも。

たしかに本作をみれば、チョー美人役も出来るはずの上野樹里がコミカルに徹した演技を展開している。しかし、意外にもラストでは重厚(?)な演技を。車イスに座って息絶えたおじいさんに向かってウエディングドレス姿で一人号泣しながら演ずる彼女の演技派女優としての重厚な演技に注目！

＜難しいラストをいかに？＞

二人のヒロインが登場すると映画は当然二人の結末を描かなければならないが、ひろ子の結末は多分簡単。だって、これだけのロードムービーを経てウエディングドレス姿をおじいさんに報告したのだから、きっと最後に待っているのはハッピーエンド。本作でひろ子は誰もが予想するおりのそんな結末に至るわけだが、さてそこから先のひねりは？

他方、「死にたい女」福子の結末のつけ方は難しい。希望どおりあっさりどこかで死んでくれればいいが、そんな設定はまず無理。すると、ひろ子と別れた後福子に訪れる結末は？もし福子もハッピーエンドにするとしたら、そのお相手は警察官の利根川純？それとも暴走族の北翔？あるいは、ひょっとしてあのペンションのイケメンオーナー景山道生？

本作は98分と要領よくまとまったハチャメチャなロードムービーだが、たくさん的人物が登場する。そして岸谷五朗監督はそれらの人物の結末を見事に描いているから、それにも注目。